矢作川流域圏懇談会通信

R5 海部会編 vol. 1

発　行　日：令和５年７月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会　事務局

◆第 52 回海部会WGを開催しました！

第 52 回海部会は、豊川自然再生事業エリアである豊川下流域にて、干潟・ヨシ原再生の状況を現地視察しました。WG では、昨年度の活動成果と今年度の活動目標、豊川及び矢作川の自然再生事業、土砂に関する技術等について話し合いました。

日　　時：令和５年６月５日（月）　12:30～16:00
場　　所：（現地）豊川下流域　（WG）豊橋市役所 東館８階 東 83 会議室
参加人数：19 名（内オンライン参加３名）　＊事務局を含む

◆主な会議内容

1　現地視察　豊川河口域

豊川自然再生事業として干潟・ヨシ原の再生が計画・実施されている豊川河口域を現地視察しました。視察では、豊橋河川事務所より自然再生事業の説明があり、干潟造成箇所、ヨシ原再生事業の計画エリアについて現状を視察しました。

2　令和４年度の活動成果と令和５年度の活動目標

令和4年度の活動目標と活動について、「ごみの問題」「豊かな海の再生に向けた取り組み」「海と人の絆再生」「土砂の問題」の4テーマの実施状況が報告されました。令和５年度は、４つの活動テーマについて、情報共有と意見交換、情報発信を行っていくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかっていきます。

3　意見交換・話題提供

(1)豊川および矢作川の自然再生事業について

豊川自然再生事業における干潟・ヨシ原の再生の現状、再生の効果について事務局より以下の報告がありました。

- 大きな出水があったことから、今後については地形の高さなどをモニタリングし、今後について検討していく。
- 放水路についてはヨシ原の再生エリアを順次拡大させている。
- 干潟の再生では、高さの管理を行う。冠水頻度等を検討しながら施工していく。

(2)土砂に関する技術紹介について

ダム堆砂分級工法の現状や今後の展望について、青木座長より以下の情報提供がありました。

- 海の浚渫工事や保安工事をやっている会社が協力して土砂の処理に関する技術開発を進めている。
- 技術開発の一つとして、細粒を取り除く方法を開発しており、それをダム砂に活用することを試行している。それにプラスして、土砂を分級する技術を開発しており、矢作ダムの砂を使って分級システムの試行を行っている。
- このダム堆砂分級工法を矢作ダムで実験する計画であることから、海部会の現地視察で見学できるよう検討したい。

(3)市民部会発の勉強会（バスツアー）について

矢作川流域勉強会のバスツアーは、9月13・14日の2日間日帰りで計画しています。海部会関係の視察地として、矢作川浄化センターと東幡豆漁協の2ヵ所を予定しています。

4　その他

事務局・関係者より以下の連絡がありました。

① R5・R6スケジュール：R5は11月に中間報告会を実施し、R6の11月に全体会議を実施する。
② 流域連携イベント：矢作川感謝祭（9/9-10）、いい川づくりWS（9/30-10/1）、三河湾大感謝祭（10/14）、中部のいい川づくりWS（12月）を開催する予定。三河湾大感謝祭は田原市で、中部のいい川づくりWSは矢作川で開催する。
③ 流域圏担い手づくり事例集：今年度は、海を主体に担い手づくり事例集を作成していく予定。

◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

●豊川および矢作川の自然再生事業について

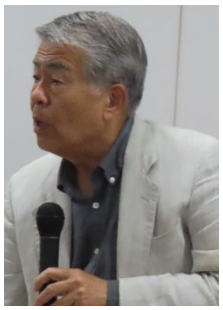
- 豊川河口域はアサリにとって重要なエリアであることがわかってきた。（青木）
  - ➢ アサリは秋に卵を産んで海の泥の中に落ちる。それが冬の季節風によって河口に吹き寄せられる。河口は三河湾の真ん中よりも水温が高いのでアサリの生育がよい。真水が入るところはプランクトンも発生しやすい。（鈴木）
  - ➢ 4～5 月の出水を契機に、一気に河口域から干潟全体にアサリが広がる。出水は陸域から海に多大な栄養塩を供給するので、餌もたくさん発生する。（鈴木）
  - ➢ 豊川河口は、伊勢・三河湾の重要な場所となっている。河口域に干潟を造成するということは、稚貝の生育の場を広げるということで非常に意味があると思う。（鈴木）
- 三河湾は栄養塩不足になっている。栄養塩管理と干潟の造成・保全をハイブリッドで進めていく必要がある。（鈴木）
- 東幡豆の干潟はハマグリが多くなってきた。藻や貝、ヒトデなどが少なくなっている。（石川）
- かつては浅場というものがあり、そこでアサリの稚貝が大量に発生していた。今、アサリが減ってきている。（石田）
  - ➢ アサリは水中の植物プランクトンなどけっこうたくさんの餌が必要。昔の三河湾ではハマグリが主体だった時代もある。富栄養化で赤潮が頻繁に出るようになった時代からアサリが急激に増えてきた。（鈴木）
  - ➢ 伊勢湾の奥でヒラメやマダイが採れる。これは、伊勢湾が内湾型から外洋型の海に変わってきている 1 つの証拠と言える。（鈴木）
  - ➢ 堤防の外でブリが採れる。スナメリは毎日いる。それくらい沖合に餌がないということ。（石川）
- アマモなど海草が減ってきている。要因としては夏場の水温が高くなっていることと栄養不足。アマモを増やすには、栄養塩管理を行い、藻類や海草が生えていた時代の栄養レベルまでもっていく必要がある。（鈴木）
  - ➢ アマモ場はブルーカーボンの対象として位置づけられている。（石田）
  - ➢ 干潟を増やさないとアマモ場はできない。アマモ場は稚魚の生息場とも言われている。（石川）

●土砂に関する技術紹介について

- ダム堆砂分級の現場を見学させていただき、いろんなことで活かしていきたい。土砂を選別し、必要なものだけを運ぶというのもありうるかもしれない。問題は取り除いたシルト分をどうやって処理するかという点。（青木）
  - ➢ シルト・粘土分の水分の多いものをどう処分していくか。垂れ流しはできない。港湾の浚渫泥を固化して基盤材に利用できないかということで名古屋港と師崎でモニタリング調査をやっている。（鈴木）
  - ➢ 港湾とかで発生する土砂を有効利用する方向にもっていかないといけない。（鈴木）
- ダムの堆砂をダム下流に置いて自然に流すのは合理的ではない。かといって、大きな礫からシルト・粘土分まで一緒にしてダンプで運ぶというのも無駄が多い。分級と分級後の処理が試験的にでもうまくいくとよいと思う。（鈴木）

●その他

- 12 月の「中部いい川づくり WS」は矢作川で開催する予定。（筒井）
  - ➢ 愛知・岐阜・三重・長野の河川関係者と中部地方整備局が主体となる。2 日目のエクスカーションは愛知・川の会で企画する。その他、流域治水など。豊橋河川事務所と協力してやっていければと考えている。（近藤）
- 今年度の流域圏担い手づくり事例集は海からはじめたいと思っている。海の場合、三河湾・伊勢湾が対象となるので、それを取材して、海の現状を事例集で伝えていきたいと思う。（近藤）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

＊矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。